

懇談会

質疑応答集

懇談会では、村民の皆さんから除染や村内の復興状況等に関する質問・意見が多く出され担当省庁などが回答を行いました。懇談会での質疑応答について主なものをお知らせします。



除染に関する 主な質疑応答

Q 村内のフレコンバッグの状況と今後どうしていくのか。

A 村では、農地のはざ取り等、徹底した除染を行っているため、村内にはフレコンバッグが大量に発生しています。

村内には現時点で約160万袋のフレコンバッグがあり、遮へい土のうで囲いながら、仮置き場、仮置き場で保管しています。遮へい土のうで囲んで保管しているため、線量は周囲と変わらない状態です。

現在、村内にあるフレコンバッグの約3〜4割を占める可燃性の廃棄物は平成32年秋までに蔵平地区仮設焼却施設で処理される予定で、土壌などの不燃物は中間貯蔵施設に搬出します。平成28年度は約5000袋を搬出予定ですが、残りについては、できるだけ早く、中間貯蔵施設に搬出できるように環境省が中心となり計画を進めています。

Q フレコンバッグの耐久性はどれくらいなのか。

A 風雨や直射日光が当たる屋外で3年程度の使用に耐えられるフレコンバッグを使用しています。仮置き場等ではフレコンバッグは、雨風や日光にさらされないように遮光性・防水性のあるシートをかけて保管しています。

環境省では、3年程度保管に使用していたフレコンバッグの耐久試験を行い、その結果、必要な強度が十分に保たれていることを確認しています。



Q 里山除染は今後、どうしていくのか。

A 里山については、復興庁・農林水産省・環境省の3省庁で検討会、検討チームを立ち上げ、里山をどのような方法で除染し、再生していく方法があるのか検討をしています。

今後は、飯館村を含めた各市町村と相談しながらモデル事業を実施する対象地域を決定し、除染以外の取り組みも合わせて里山再生を進めていく予定です。

Q 除染後の宅地の線量が気になります。

A 平成27年10月から、除染後の宅地の事後モニタリングをガンマカメラ等で実施し、必要な箇所の調査・検討を行った上でフォロアアップ除染等を行っています。

今年度も引き続き、事後モニタリングを行い除染効果を確認します。高線量箇所については、フォロアアップ除染を実施します。

Q ガンマカメラで枯葉等が溜まっている場所を測ると線量が高い。対応はどうなのか。

A 枯葉そのものについては、林野庁による川内村の杉林の調査データによると、線量は年々下がってきています。一方で枯葉が溜まりやすい側溝等の線量が高い場合があります。

このような場所については、現地確認等をして、フォロアアップ除染で対応していきます。



村内の現状・復興に関する主な質疑応答

Q 避難指示解除時期及び長期宿泊の決定はいつ頃になるのか。

A 村及び村議会は、避難指示解除時期を平成29年3月末、長期宿泊を今年の7月1日から開始したいと国へ要望をしています。

これを受け国としては、早期に回答するよう検討を進めています。

Q 帰村後も復興交付金のように村が自由に使える予算を国にお願いしたい。

A 国では、これまでも復興に関わる交付金を予算化してきました。避難指示解除と同時に、これらが終わりではなく、解除後も国としてしっかりと支援を行っていくことを約束します。

Q 村内の福祉はどうなっていくのか。

A いたて福祉会が、震災後も国の許可を得ていたてホームを継続運営しています。

今の大きな課題は、福祉に携わる人が少ないことです。震災後から、介護職員を継続して募集しています。厳しい状況が続いています。

この状況を受け村では、国に対して介護職の支援を要請しています。



Q 被災家屋等解体工事の進捗状況について教えてください。

A 被災家屋等解体工事は、これまでに2回受付は全体で約1100件でした。建物の数にすると3900件です。

そのうち、27年度に解体できた件数は74件でした。今年度は4月1日付で546件の発注を行っており、残りは29年度中に全て解体できるように計画中です。

Q 村内の鳥獣被害対策はどうしていくのか。

A 全村避難中の村内では、イノシシ、サル等による被害が多発しています。この対策として、飯館村の捕獲隊の皆さんが、年間イノシシ約200頭、サル約10頭を捕獲しています。イノシシ、サル等が年々増えている現状です。

今後は、田畑等への電気柵設置への補助も検討していきます。